

2月8日

いま行動しなければ

ロシアのウクライナ侵攻を止めたい——。もう願う抗議活動は、27日もSNS上や各地で続いた。

▼1面参照



ウクライナ侵攻抗議 集会や発信

大阪・難波の高島屋大阪店前では、6歳から60代の約25人が「ウクライナに平和を」などと印刷されたプラカードを掲げた。

ツイッターで集会を呼びかけたのは大阪府の女性会社員(35)。ロシア国内で逮捕を躊躇しながら侵攻に抗議する人々のことが報道されている。その姿に胸を打たれ、「行動しなければ」と感じたといつ。

女性のツイートを見た、40代の女性会社員は長女(6)と参加した。「娘と同じように、当たり前に暮らしていた人々が戦争に巻き込まれている。何かできることがないかと思った」と話す。「ウクライナ」「大

クライナ侵攻に無事で抗議するサイレンスタンディングに参加する人たち」27日午後、大阪市中央区、飯塚悟撮影

阪」などの言葉でネットを検索して、集会を知ったといふ。

「ウクライナの人はもちろん、ロシアの（軍人の）若

者も攻撃を命じのね、殺しきられない状況に心が痛む。戦争を許してほいけど発信したい」と話す。

相次ぐた。NGO「日本平和委員会」（東京都）は自分の手に「#NOWA R」と書き、その写真を投稿する」となどを呼びかけた。開始時間になると、様

キエフの大使館 元公邸料理人

ウクライナの首都キエフにある日本大使館で、かつて公邸料理人を務めた人が

東京にいる。当時も政変を経験したが、今回はロシアによる軍事侵攻が首都にまで到達。「緊迫の度合い

がまるで違う」と知人を案じている。

「キエフ中心部で市街戦」「民間人も死傷」。メディアから伝わるニュースも緊迫度を増している。東京都渋谷区のウクライナ料理店のオーナーシェフ、飯島一郎さん(45)は、いつも二ユースを聞く度、不安が募る。

大使館で働いていた2004年、ウクライナで「オレンジ革命」が起り、親歐米派が支持する民主政権が誕生。キエフでは親歐米派による親ロシア派への抗議集会が連日開かれ、日々の中を通り抜けて買い物へ行かねばならなかつた。

「無血革命」とされた當時でさえ、街がどうなるのか不

安だった。大国が攻め込んだ今、あの時と比較にならない恐怖に包まれている」と思つ。

「落ち着いていい、誰もが優しく、温かかった」。日本語を勉強しているウクライナ人の大学生は、会えば熱心に日本の文化や習慣について聞いてくれ、交流を重ねた。



経験の政変と「緊迫度合い違う」

キエフで公邸料理人として働いた経験があるシェフの飯島一郎さん(45)、東京都渋谷区富ヶ谷一丁目

相次ぐた。NGO「日本平和委員会」（東京都）は自分の手に「#NOWA R」と書き、その写真を投稿する」となどを呼びかけた。開始時間になると、様

現地には公邸スタッフと一緒に働いたウクライナ人の同僚たちがいる。

「無事であってほしいし、この無意味な戦いが早く終わってほしい」と願う。